オーガナイズドポスターセッション2（OPS2）

～豪雨による流木流出の特徴と対策へ向けて～

企画・進行　田村　㈱建設技術研究所
佐藤　電力中央研究所
本多　パシフィックコンサルタンツ

時間　6月13日　11:00～12:00
場所　東京大学 弥生講堂 一条ホール

【ＯＰＳ２の流れ】

（1） 趣旨説明

（2） ポスター発表の中からの話題提供

- 流木の挙動と巨礫による河床上昇に着目した、平成23年台風12号による那智川流域井関地区の氾濫メカニズムの検討
  （国土技術政策総合研究所　木下篤彦）
- 移流拡散方程式に基づく流木の解析
  （土木研究所　原田大輔）
- 小本川の流木捕捉施設設計に関する水理模型実験による検討
  （水工リサーチ　加藤一夫）
- 流木の流出特性を考慮した流木対策に向けた提案
  （三井共同建設コンサルタント　原田紹臣）

（3） パネルディスカッション

【 趣 旨 説 明 】

◆　近年の豪雨災害の特徴

- H28年北海道・東北豪雨やH29年の九州北部豪雨において，大量の土砂・流木が流出
- 流木が橋梁部に捕捉され、水位のせき上げや氾濫が発生
- 橋脚の傾倒・流失
- 流木の氾濫による家屋や施設への損傷

【趣旨説明】

H29.12「中小河川緊急治水対策プロジェクト」（国交省）

全国の中小河川の緊急点検結果に基づき、土砂・流木捕捉効果の高い透過型砂防堰堤等の整備の促進が示されている。

対策の内容・効果

山地部の渓流

〈 透過型砂防堰堤の新設 〉
（砂防堰堤未整備の箇所）

〈 既設砂防堰堤の改良 〉
（砂防堰堤整備済の箇所）

土砂・流木捕捉効果の高い透過構造の砂防施設により土砂・流木の流出を防止

※上流で治山事業が実施される場合には、林野庁と連携し、上下流一体となった対策に取り組む

透過型砂防堰堤による流木捕捉事例

河川（上流）

〈 流木捕捉工の新設 〉

河道に流入した流木を捕捉

国交省発表資料抜粋

【関連投稿論文の状況】

◆ 流木に関連した論文（河川技術論文集）

2018年	６件	
2017年	２件	九州北部豪雨
2016年	２件	北海道東北豪雨
2015年	１件	関東東北豪雨
2014年	０件	広島市豪雨土砂災害

【パネルディスカッション】

①流木対策の現状・背景

②流木の定量的な評価

例）流木の生産量、流下に伴う収支など、発生頻度

③危険箇所の推定

例）どの橋梁が危ないか

④具体的な対策

例）課題、砂防域・河道域の対策、橋梁の対策等、分野連携

⑤その他